

■ 高野家記録デジタルアーカイブについて

■ ご利用にあたって

■ 高野家の歴史

■ 高野家記録について

■ 高野家記録の所蔵状況

■ 電子化およびデジタルアーカイブ公開の経緯

■ 高野家記録デジタルアーカイブについて

仙台藩譜代の家臣で旧刈田郡平沢村（現蔵王町大字平沢）に所領と平沢要害を拝領した高野家は、江戸時代を通じて平沢の地を治め地域の安定に尽くしました。「高野家記録」は、十八代武兼たけかね、十九代倫兼ともかねによる元禄9年（1696年）から天明2年（1782年）までの86年間の記録を中心とした史料群で、江戸時代中期の藩政全般から武家財政、農村や百姓の生活などを知る上で大変貴重です。また、長期間にわたる天候や有感地震の記録史料としても注目されています。本アーカイブでは、広く調査・研究利用等に資することを目的として、これらを集約し一括して公開するものです。

「高野家記録」の電子化ならびにデジタルアーカイブの公開にあたり、趣旨にご賛同いただきご理解とご協力を賜りました関係各位の皆さまに記して御礼申し上げます（敬称略）。

- 協力者・協力機関 平沢 一則 宮城県図書館 宮城教育大学附属図書館
- 業務受託者 株式会社プレシード 代表取締役 今野 豊
- 協力事業者 株式会社吉岡映像 代表取締役 吉岡 博行
- 作業協力者 菅野 正道（郷土史家・元仙台市史編さん室長）

本デジタルアーカイブがインターネットを通じて広く活用され、各種の調査・研究等の進展に資するとともに、新たな学術的価値の発見や地域史研究の深化につながる知の循環の胎動を期待してご挨拶いたします。

令和7年3月31日

蔵王町教育委員会 教育長 文谷 政義

■ ご利用にあたって

■ ご利用環境等

インターネットに接続されたパソコン、タブレット端末、スマートフォンでご利用いただけます。なお、本デジタルアーカイブのご利用にあたっては、大容量のデジタルデータが配信されます。従量制課金接続の場合は通信容量に注意が必要です。ご利用のインターネット接続プロバイダーの利用条件等を事前にご確認の上、ご利用下さい。

■ プラグインについて

本デジタルアーカイブのデジタル画像の閲覧には、PDF 形式対応ビューアが必要です。一般的なパソコン、タブレット端末等では、初期状態で PDF ファイルの閲覧が可能と思われませんが、必要に応じて PDF 形式対応ビューアソフトウェアをインストールするなどしてご利用下さい。なお、ソフトウェアのインストールの結果生じた機器の不具合等について当教育委員会では責任を負いません。

■ デジタル画像等の利用について

本デジタルアーカイブで公開されている画像の利用条件は原資料の所蔵者ごとに異なります。ご利用にあたっては出典を明記の上、下記の所蔵者ごとの条件（CC：クリエイティブ・コモンズ・ライセンス）に従ってください。ここで許諾されていない範囲の利用方法を希望される場合は、必ず原資料の所蔵者へ問い合わせの上、別途利用の許諾をとってください。

〔出典の記載例〕 出典：高野家記録デジタルアーカイブ（蔵王町教育委員会）／出典：蔵王町教育委員会「高野家記録デジタルアーカイブ」

【個人所蔵資料（蔵王町指定文化財）】

所蔵者を表示しかつ資料を改変しないことを条件に、非営利目的でのみ御利用いただけます。〔 CC BY-NC-ND 4.0 〕

【宮城県図書館所蔵資料】

所蔵者を表示しかつ資料を改変しないことを条件にご利用いただけます。〔 CC BY-ND 4.0 〕

【宮城教育大学附属図書館所蔵資料】

所蔵者を表示しかつ資料を改変しないことを条件に、非営利目的でのみ御利用いただけます。〔 CC BY-NC-ND 4.0 〕

ただし、本デジタルアーカイブを利用して行う一切の行為に関する責、その他の問題については、利用者においてその責任を負うものとし、当教育委員会および原本資料所蔵者は何ら責任を負いません。また、利用者と第三者との間に問題が生じた場合も、利用者はその責任を負い誠実に対処してください。

■活用事例に関する情報提供のお願い

当教育委員会では郷土史料を広く公開し研究利用等の便を図ることにより、新たな学術的価値の発見や地域史研究の深化につながる知の循環を期待しております。本デジタルアーカイブを利用した研究等の成果や、その他の利用例などがあれば、簡単な内容でも結構ですので、ご教示いただきますようお願いいたします。

■お問い合わせ・ご連絡先

本デジタルアーカイブの利用に関するお問い合わせ先および研究成果等の情報提供先につきましては、下記へお願い致します。

〒989-0892

宮城県刈田郡蔵王町大字円田字西浦北10番地

蔵王町教育委員会 生涯学習課 文化財保護係

電話：0224-33-2328 FAX：0224-33-3831

E-mail：bunkazai@town.zao.miyagi.jp

■ 高野家の歴史

高野家は室町時代中期から伊達家譜代の家臣として重用された家柄です。慶長7年(1602年)に旧刈田郡平沢村(現蔵王町大字平沢)に所領と平沢要害を拝領し、江戸時代を通じて平沢の地を治めました。要害とは仙台藩内の仙台城と白石城に次ぐ軍事上の要地に設けられた居館で、宝暦期には領内二十一か所ありました。

高野家はもと鎌倉幕府の御家人で、初代時家ときいえが常陸国多珂郡高野庄たか たかのしょうに住み、高野姓を名乗ったことにはじまります。八代知定ともさだのとき出羽国置賜郡長井庄ながいのしょうに移り、九代知清ともきよのとき伊達家に臣従し、十二代知有ともありのとき同郡吉田村に移りました。十四代親兼ちかかねは伊達輝宗・政宗てるむね まさむねに従って戦功を上げ、陸奥国伊具郡丸森村(現丸森町)に知行百貫文と丸森城を拝領しました。当時、伊達家にとって伊具郡は、摩擦の絶えない相馬氏との戦略上の要地であり、親兼が伊達家の厚い信頼を得ていたことが窺えます。

高野家が平沢村に領地を得たのは十五代光兼みつかねのときでした。親兼の死去により光兼が家督を継ぐも若年にして要地を守ることが難しく、領地替えとなったのです。このとき刈田郡平沢村に知行百貫文と平沢要害を拝領して移り住みました。

こうして江戸期には平沢領主として、また仙台藩政に参画する要臣としてあり続けました。わけでも十八代武兼たけかねは藩主綱村つなむらの信頼厚く、領内の安定に尽くし、社寺の整備に努めるなど、善政を敷きました。武兼のとき知行百六十五貫文に加増され、新たに宮城郡沢乙村に所領を与えられています。その子の十九代倫兼ともかねも、父武兼の善政を引き継ぐとともに、若老じゃくろうとして藩政をあずかった名君でした。

倫兼は父武兼が創設した飢饉に備える軍用穀の制度について記した「軍用穀碑」を建立し、倫兼の没後には「高野倫兼遺訓碑」が建立されました。この遺訓碑に刻まれた碑文は、幕府が出した「慶安の御触書」、「百姓条目」の趣旨に匹敵するもので、倫兼が高野家記録「安永八己亥退隠記」に記したものです。

高野家は代々伊達家の着座の班に列し、仙台藩政に貢献する一方、在郷たてしたまわの平沢村においては平沢要害館下町の整備や村内の神社仏閣の保護・整備、農民の統制・保護などに取り組み、江戸期250年余りに及ぶ平沢領内ひいては仙台藩内の治世の安定に尽くしたのです。

■ 高野家記録について

「高野家記録」は、仙台藩譜代の家臣であり刈田郡平沢村に領地と平沢要害を拝領した高野家に残された元禄9年(1696年)から天明2年(1782年)までの86年間及び天保年間の記録です。仙台屋敷、江戸詰、在郷平沢での出来事などを詳細に綴った生活記録であり、仙台藩の正史である「伊達治家記録」にも匹敵する貴重な歴史資料です。

これらを大別すると、高野武兼の「慈雲君事跡録」〔元禄9年～元文2年(1696～1737年)〕と、高野倫兼の現役時代の「筆記」〔元文2年～安永4年(1737～1775年)〕と「江府日記」〔天明元年・2年(1781・1782年)〕、隠居した後の「退隠記」〔安永5年～安永10年(1776年～1781年)〕および天保年間に記された「筆記」(部分日記)からなります。

記録の始まる元禄九年は高野武兼が高野家の当主となった年であり、倫兼は天明二年正月に八十二歳で没しているため、この八十六年間の日記は武兼と倫兼による高野家の日記です。但し倫兼は明和3年(1766年)に隠居して子の博兼が後を継ぎ、その後明和7年(1770年)には孫の統兼が8歳にして当主となりました。すなわち倫兼は隠退しても幼主をかかえて高野家を支えてゆかねばならない立場にあったのです。父の武兼は病気のため既に京保2年(1717年)から倫兼が父に代わって出仕し、享保10年(1725年)には所領を襲封しました。つまり86年間のうち最初の20年を除いた外は倫兼自身の生活記録といえることができます。

高野家は仙台藩譜代の要臣として代々藩公に仕えてきた家柄であることから、倫兼の日記は藩政上の重要問題にも及んでいます。また倫兼の日常生活は仙台において、また参勤扈從の江戸において、そして七十五名家臣団が生活の本拠地とする平沢と常に結びついたものでした。高野家の知行地は刈田郡平沢村のほか小村崎村、宮城郡沢乙村、加瀬村にもあり、これら各村に関する記録も含まれています。このように藩政全般から武家財政、農村や百姓の生活を知る上で大変貴重な記録であると言えます。

「高野家記録」についてはこれまでに「蔵王町史 通史編別冊 高野家記録目次」において高野武兼・倫兼による86年間の記録の概略が示されており、「蔵王町史 資料編II」においてはこのうち武兼による元禄末期から宝永・享保年間の、倫兼による宝暦年間、安永八・九年、天明元年の記録の中から適宜抜粋する形で活字化されています。しかしながら、これらの成果は本デジタルアーカイブで公開する「高野家記録」の全体から見ればごく一部分の翻刻に留まるものです。

■ 高野家記録の所蔵状況

「高野家記録」については、明治 18 年 (1885 年) に吾妻家によって員数の調査がなされており、その記録「慈雲君事跡禄御筆記并江戸記仙台記等巻数調」では、最後に「巻数惣べ二百七十四冊右之通相改め取り調べ候条、後日出し入れの節、紛乱無之様取り扱ふべく候事」とあります。吾妻家はもと我妻を称し、高野家の家臣で留守居役を勤めたと伝えられており、この時点で吾妻家に総数 274 冊が一括保管されていたと推定されます。その後、時期は判然としませんがこれらの大部分は平沢家の所蔵するところとなり現在に至ります。

戦後、「高野家記録」は東北大学教育学部歴史学研究室に運ばれ、同学部が宮城教育大学に移行した後は同研究室から某氏宅に移されて保管されていました。昭和 50 年代前半に平沢家に返還される際、宮城県図書館においてマイクロフィルム撮影が行なわれました。この時の巻数は、目次 13 冊、慈雲君事跡禄 48 冊、筆記退隠記 191 冊および天保筆記 9 冊の計 261 冊です。残る 13 冊は現在、斎藤報恩会旧蔵資料（常盤文庫）として仙台市博物館に 2 冊、宮城教育大学附属図書館に慈雲君事跡禄 2 冊、同日次 9 冊が収蔵されています。

また上記のほか、主に高野倫兼の著として宮城県図書館に「初年之記」、「燈前示教」、「燈前随筆」、「訓戒書」、「君上奏草」、「寶暦十三年癸未詠草」、「往古記事」、「編年記畧」、「御二丸御門番所御條目條々并編年記畧」、「並御足輕吉右衛門與小姓佐藤兵右衛門確執之事」、「高野家譜」、「高野家由緒寫（高野家畧譜）」が所蔵されています。

■ 電子化およびデジタルアーカイブ公開の経緯

蔵王町においては昭和 57 年 4 月に蔵王町史編纂委員会が組織され、昭和 62 年から平成 6 年にかけて「通史編」、「民俗生活編」、「資料編I」、「資料編II」からなる「蔵王町史」全 4 巻を刊行しました。この編纂事業の初期段階において「高野家記録」を含む町内所在の古文書他関係資料の収集が行なわれ、同時にマイクロフィルム撮影による代替資料の作成が進められました。「高野家記録」については宮城県図書館および宮城教育大学附属図書館の協力を得て、既に撮影されていたマイクロフィルムの複製が行なわれました。

蔵王町史編纂委員会の解散後、関係資料は蔵王町教育委員会へと移管され、マイクロフィルムについても町史に関連する歴史資料の代替資料として収蔵してきました。このマイクロフィルムは一般収蔵庫において保管してきましたが、令和 5 年 8 月に強烈な酢酸臭の発生とともに一部のフィルムは溶着し、プラスチックケースからリールを取り出せない状態となっていることを確認しました。フィルムの基材であるセルロースアセテートの加水分解によって生じた酢酸ガスによる劣化現象で、通気性に乏しい容器に収納していたことと近年の酷暑により加速度的に劣化が進行したとみられます。

緊急対応として劣化の程度によりフィルムを分別した上で、可能なものは通気性のあるリール・保存容器に交換し、フィルム保護用の合成ゼオライト、酢酸吸着シート、防カビ剤を封入し、密閉容器に保管しました。しかしながら劣化を止めることは技術的に不可能であること、上記の「高野家記録」以外の町内所在の古文書他関係資料については既に所在が確認できないものを含むことが予想され原本資料に準ずる価値を有することから、令和 6 年度に歴史資料電子化記録保存活用業務を株式会社プレシード（仙台市）に委託し、マイクロフィルムのスキャニングによる電子化で記録保存を図るとともに、デジタルアーカイブとしてインターネットでの公開活用を図ることとしました。

電子化にあたっては、劣化の程度が軽く比較的健全性を保っていたマイクロフィルム 32 巻と株式会社吉岡映像（京都市）に依頼して平滑化処理を行なった 1 巻に加えて、宮城県図書館所蔵資料については同館が保管するマイクロフィルム 13 巻を借用して高解像度でスキャニングを行ない、宮城教育大学附属図書館所蔵資料については許可を得て新たに原本資料のデジタルカメラ撮影を行ないました。以上の経過を経て、計 19,545 コマの電子記録を作製したものです。なお、町内所在の古文書他関係資料を収めたマイクロフィルムのうち 10 巻は残念ながら劣化の進行により極めて状態が悪く、電子化を行なうことができませんでした。

公開活用にあたっては、インターネット公開に適した解像度に圧縮した画像を作成し、汎用性の高い PDF 形式で公開することとしました。まずは資料の一括性が高く原本所蔵者の平沢一則氏、宮城県図書館、宮城教育大学附属図書館の承諾を得た「高野家記録」について、菅野正道氏の協力を得て項目ごとしおりを付した PDF 形式の電子データを作成し、デジタルアーカイブとして公開するに至ったものです。